

# 岐阜県中津川市

【2期計画：平成30年7月～平成36年3月】

・中山道の宿場町として栄え、交通・物資収集の場として、また街道の文化の往来を伴って地域の産業・文化を発展させてきた。明治 30 年に3町村合併により中津川町が誕生し、昭和 27 年に市制施行。その後町村合併法により、現在の中津川市となった。  
 ・人口78,642人(H29年4月1日現在)、面積676.45 km<sup>2</sup>

## 【前期計画(平成20年7月～平成25年3月)の概要】

- ・歴史的町並みの景観整備、中津川宿六斎市事業等商店街イベントの開催により歩行者数は目標を達成したが、新図書館建設事業や民間共同住宅供給の中止の影響等により、活性化につながらなかった。
- ・前計画終了後、歩行者数は減少に転じ、商業店舗数や居住人口等も引き続き減少するなど、中心市街地の人を集める魅力と賑わいが失われつつある。

## 【中心市街地の課題等】

### ・多様な店舗が存在する商業空間の創出

郊外への大型店舗の出店や空き店舗の増加により、商業による吸引力が弱まっている。空き店舗等を活用し、個店の新規出店等を促すとともに、商店街が連携したソフト事業にも取り組み、商業による活性化を図ることが求められる。

### ・地域資源を活かしたまちなかへの観光客の取り込み

中山道の宿場としての歴史資源等を活かす町家等の改修のほか、観光ツアーの実施によりまちなかの魅力と回遊を高め、市内で増加するインバウンドやリニア開通(2027年予定)による交流人口拡大のチャンスに対応して観光客が流入する仕組みを作ることが求められる。

### ・人々の交流が生まれる中心市街地の形成

子育て支援をはじめ市民生活や活動を支える機能や環境が不十分で、まちなかの来街者数も伸び悩んでいる状況であり、快適性や利便性を高め、まちなかを幅広い世代の市民が集う居場所としていくことが求められる。

## 【目指す中心市街地の都市像】

### 人をつなぐ、地域をつなぐ、未来につながる中心市街地

## 【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	実績値	最新値
元気で活力あふれるまち	歩行者数 (平日、5地点計)	4,056人/日 (H19)	4,630人/日 (H24)	4,708人/日 (H24:達成)	4,525人 (H29:フォローアップ値より減少)
	商業店舗数 (店舗/年)	130店舗 (H19)	135店舗 (H24)	130店舗 (H24:未達成)	120店舗 (H29:フォローアップ値より減少)
かがやく人々やすらげる自然、活気あふれるまち	観光客入込数 (人/年)	324,300人 (H19)	360,000人 (H24)	233,200人 (H24:未達成)	314,000人 (H28:フォローアップ値より増加)
安心で便利に暮らせるまち	居住人口 (人/年)	3,310人 (H19)	3,400人 (H24)	3,070人 (H24:未達成)	2,826人 (H29:フォローアップ値より減少)

## 【新計画目標】

基本方針	目標指標	基準値	目標値
魅力と活力あふれる「商業のまち」	新規出店数	31店舗 (H24～H29合計値)	50店舗 (H30～H35合計値)
歴史と文化を伝える「観光のまち」	特定施設等観光客入込数 (人/年) ※1	123,000人/年 (H28)	149,200人/年 (H35)
潤いといきがいを育む「交流のまち」	都市福祉施設利用者数 (人/年) ※2	153,330人/年 (H28)	170,400人/年 (H35)
	歩行者通行量 (平日・5地点計) ※3	4,525人/日 (H29)	4,954人/日 (H35)

※1 特定施設等観光客入込数計測場所：中山道まつり、六斎市、中山道歴史資料館、地域文化資源活用交流事業、まちなか歴史散歩事業、歴史的資産を活用した町家再生事業、間家大正の蔵  
 ※2 都市福祉施設利用者計測場所：新町ビル活用事業、まちなかステーションねこのて ※3 調査地点は、裏面地図に表示

## 魅力と活力あふれる「商業のまち」

- 【主要事業】
- ・空き店舗対策事業
  - ・トライアルショップ事業
  - ・中山道中津川六斎市事業
  - ・中津川まちゼミ事業
  - ・歴史的資産を活用した町家再生事業など

## 歴史と文化を伝える「観光のまち」

- 【主要事業】
- ・歴史的資産を活用した町家再生事業【再掲】
  - ・間家大正の蔵活用事業
  - ・まちなか歴史発見散歩事業
  - ・地域文化資源活用交流事業
  - ・統一案内サイン整備事業
  - ・中山道中津川六斎市事業【再掲】

## 潤いといきがいを育む「交流のまち」

- 【主要事業】
- ・新町ビル跡地開発事業
  - ・駅前広場整備事業
  - ・域学連携大学生・高校生が集う拠点づくり事業
- など

# 中津川市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 魅力と活力あふれる「商業のまち」

### ①空き店舗対策事業

空き店舗の調査・発掘、改修、情報発信と出店希望者への補助制度の充実などを民学官（まちづくり会社、古民家再生に取り組む民間団体、商店街、大学、中津川市）で連携、連動して取り組むことにより、空き店舗の活用と新規出店数の増加を図る。

### ②トライアルショップ事業

まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受け、トライアルショップとして活用し、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。

### ③中山道中津川宿六斎市事業

江戸時代に中津川宿で開かれていた六斎市を月1回定期開催。新たな試みとして、有名店の出店誘致や夜間の開催等により、更なる集客を目指す。



### ④中津川まちゼミ事業

商店主が専門性を活かした技術や知識を顧客に伝え、リピーターの増加を図る。

## 潤いといきがいを育む「交流のまち」

### ⑩新町ビル跡地開発事業

前計画において事業が中止となった新町ビル跡地に、子育て支援や市民交流・活動・学びの拠点となる複合施設を建設し、まちなか交流人口を増加させ、移住定住につながる魅力と価値を高める。

### ⑪駅前広場整備事業

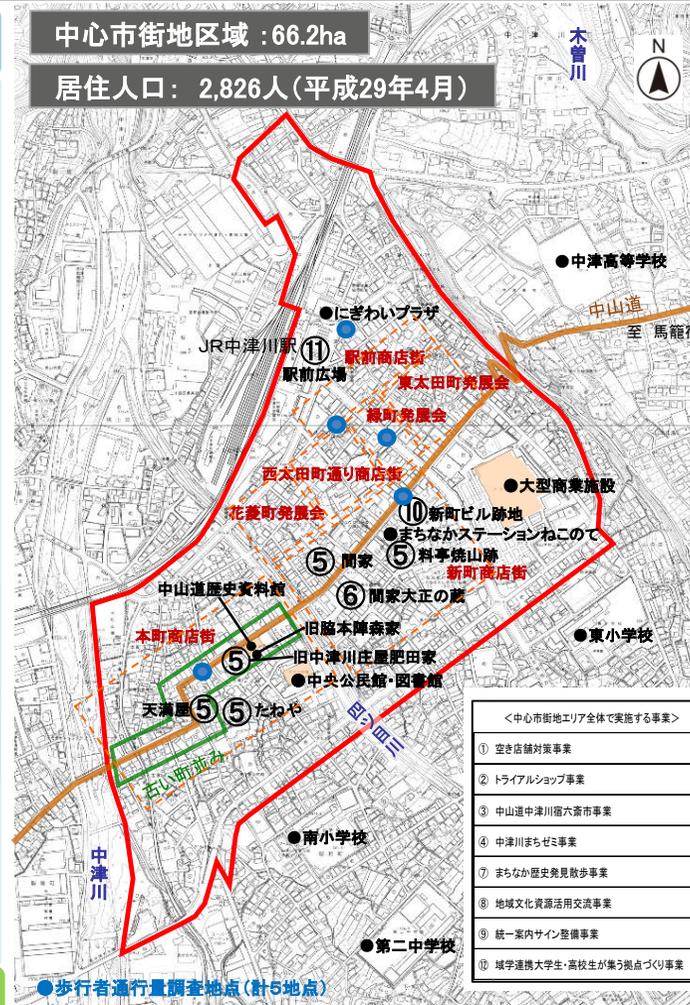
駅前広場を再整備し商店街への回遊性向上や商店街等によるにぎわいイベントの開催で歩行者通行量の増加と交流によるにぎわいを創出する。

### ⑫域学連携大学生・高校生が集う拠点づくり事業

市と域学連携締結している大学や市内高等学校が、まちなかを拠点として活性化イベントの企画・実施を行い、若者によるにぎわいを創出する。

中心市街地：66.2ha

居住人口：2,826人（平成29年4月）



## 歴史と文化を伝える「観光のまち」

### ⑤歴史的資産を活用した町家再生事業

官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在や滞留する観光客数の増加を図る。



### ⑥間家大正の蔵活用事業



大正時代の旧家の蔵を展示会や飲食等ができる施設として整備し、中山道へ訪れる観光客数の増加を図る。

### ⑦まちなか歴史発見散歩事業

まちなかの歴史スポットをガイドとともに巡る歴史散歩小ツアーを定期開催し、まちなかを回遊する観光客の増加を図る。

### ⑧地域文化資源活用交流事業

まちづくり会社と商店街が連携して、インバウンドを対象にした地域の伝統や文化に触れ、体験するツアーを実施し、商店街のにぎわいを創出する。

### ⑨統一案内サイン整備事業

駅前から各商店街、古い町並み景観が残る本町までの区間において統一サイン整備による案内機能の向上を図り、観光客のまちなかへの回遊性を高める。